



告などは収集時に発火する危険があります。昨年も二、三件の発火事故がありました。収集作業に従事するかたのことを考え、必ずガスを抜くようにしましょう。

ごみ焼却場の現状

大館広域第一環境センターでは、大館市、比内町、田代町の燃やせるごみを焼却しています。

ダイオキシン対策として平成九年七月より塩ビごみ（六品目）は同和クリーンテックスに処理を委託しています。また同十年九月から二十四時間体制で焼却を行っており、昨年度は一日平均六十六トンを処理しています。

搬入されたごみは、まずごみピットにためられます。そのごみはクレーンでコンベアーに運ばれ破砕機で碎かれます。碎かれたごみは焼却炉で摂氏七〇〇度から八



〇〇度までになる砂によって焼かれます。焼け残った燃やせないごみは粗大ごみ処理施設に運ばれ、焼却灰については同和クリーンテックスで処理されます。また、焼却物中の鉄分は資源として回収されます。

しかし、この施設は平成十四年十二月からのダイオキシン排出濃度基準の改正に適合できません。このため、現在PFI方式による新しい施設の整備が進められています。

粗大ごみ処理施設の現状

燃やせないごみと粗大ごみは大館広域粗大ごみ処理場に運ばれ、強力な破砕機により細かく碎かれます。しかし、碎ききれないケースも多くあります。特にじゅうたんやベッドのマットレスは手作業で切断されます。碎かれたごみは、



丸岡生活環境課長（左）に取材する柴田リポーター

さらに鉄分など資源として回収されるほかは、埋立最終処分場に運ばれ埋め立てられます。

埋立最終処分場は、現在のごみの量が運ばれ埋め立てられ続けている、まだ十年は余裕があるとのことでした。

今後のごみ対策

市では、平成十一年十二月に国の承認を得た「秋田県北部エコタウン計画」の事業として、積極的に資源リサイクルに取り組んでいます。

家電リサイクル法により、粗大ごみとして処理されている指定四品目（テレビ・エアコン・冷蔵庫・洗濯機）の処分は来年四月から有料となります。これらを資源として分解する花岡地区の「家電リサイクル工場」は、来年四月から稼働を始めます。また、現在真中地

区に建設中の「コンポストセンター」では主に事業系生ごみのリサイクル（たい肥化）を進める予定です。さらに、空き缶や空き瓶などを仕分けしてリサイクルを進める「リサイクルセンター」の建設も検討しています。

これらの事業は、単にごみの減量を進めるためばかりではなく、資源リサイクルを新たな市の産業として位置付けているものです。

おわりに

今回の取材で、大館市のごみの処理に年間六億一千九百万円が使われ、資源としてリサイクルされるのは全体のわずか一〇%にすぎないことを知りました。

今後、大館では資源リサイクルに向けた事業が展開されます。リサイクル率を大幅にアップし、ごみの処理にムダなお金をかけないためにも「安易にものを使い、捨てる生活から大事にものを使い、ムダをなくす生活へ」と市民一人ひとりのライフスタイルを変える必要があります。そして、資源リサイクルのためにごみの分別をしっかりと行うことも大切です。今回のリポートを通して、「自分の出した『ごみ』に責任を！」を痛感しました。